

平成26年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における長吉中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成26年4月から7月末までの期間に、2年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にさせていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 子供の体力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年の原則として全生徒
- ・長吉中学校では、2年生 118名

3 調査内容

- (1) 児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査（以下、「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
中学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択）

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童・生徒質問紙調査」という。）を実施する。

平成26年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」検証シート

大阪市立長吉 中学校

生徒数

118人

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	28.02	26.87	43.89	53.64		81.00	8.05	183.89	19.50	41.09
大阪市	29.42	27.25	40.64	50.72	406.21	83.32	8.13	188.65	20.44	40.47
全国	29.00	27.45	42.92	51.31	392.89	85.29	8.03	193.43	20.86	41.74
女子	22.82	22.84	47.39	49.82		62.38	8.66	162.88	14.90	51.57
大阪市	23.98	22.69	43.59	45.42	302.75	56.63	9.01	163.40	12.82	47.51
全国	23.70	23.07	45.23	45.63	290.64	57.77	8.87	166.53	12.88	48.66

結果の概要

男子について、長座体前屈、反復横とびにおいて、全国平均を上回った。また、長座体前屈、反復横とび、50m走、体力合計点で、大阪市平均を上回った。

また、女子では、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、ハンドボール投げ、体力合計点の6項目で、全国平均を上回った。また、握力、立ち幅とび以外の種目で、大阪市平均を上回ることができた。

昨年度に比べ、男女ともに飛躍的な成績の向上が見られる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

<これまでの取り組みの成果>

本市事業（「課題に応じた教育活動推進事業」）を活用し、全学年の授業を習熟度別少人数性を含むさまざまなチームティーチングで取り組んだ。チームティーチングによる授業を行ったことで、水泳や柔道等、特に危険を伴うような授業も事故なく、計画通り効果的に実施することができた。

また、チームティーチングによる授業等を全学年で実施し、特に2年生では1コマ男女約20人での少人数授業を行い、生徒の活動量、活動時間を増大させ、つまずき等を個別に指導することができた。これらの結果からも、生徒の体力向上を図ることができた。

その結果、男子では、体力合計点で大阪市平均を上回ることができた。また、女子においては、体力合計点で全国平均を上回ることができた。

<今後取り組むべき課題>

チームティーチング等を引き続き行い、体育授業の充実に努める。

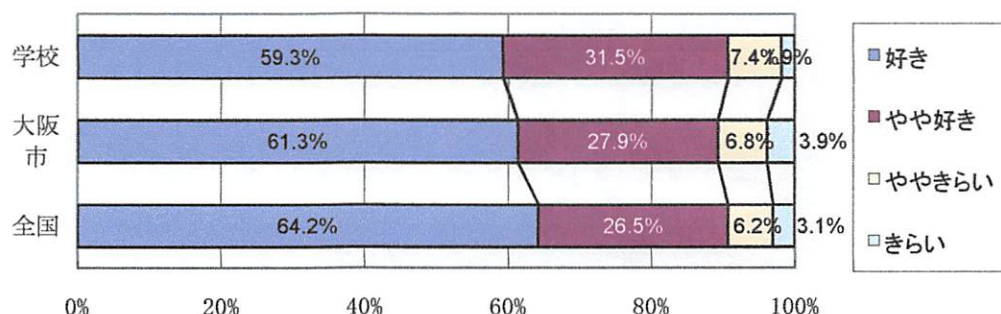
また、体力の向上とともに、授業規律の確立を図り、体育科や他教科をはじめ生活指導部、学校全体の課題として、さらに対策を講じていく。

運動やスポーツについて（男子）

質問 番号	質問事項
----------	------

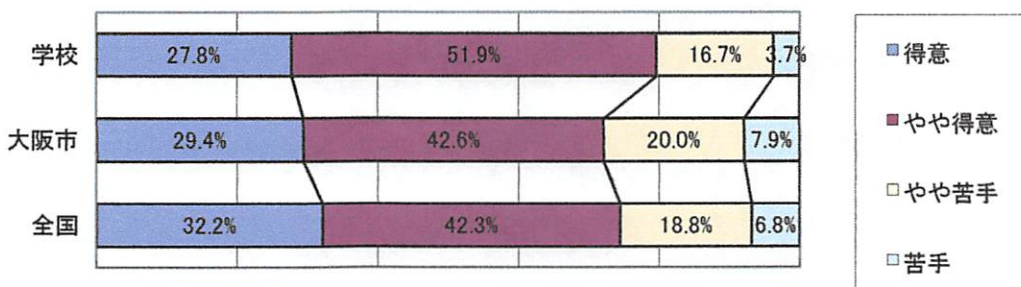
1

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか



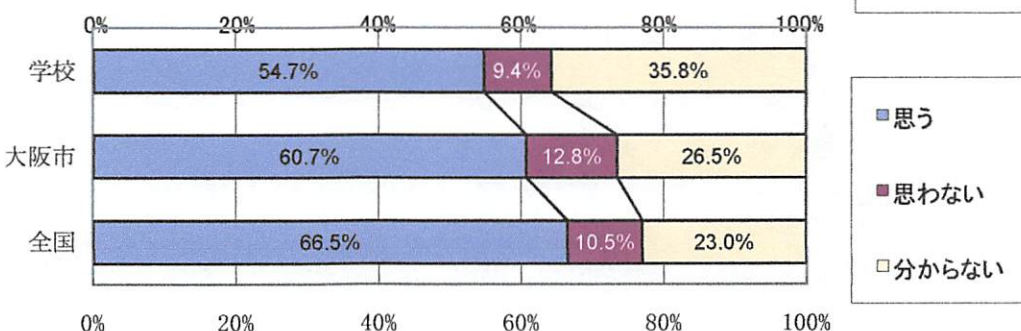
2

運動やスポーツをすることが得意ですか



3

中学校卒業後、自主的に運動したいですか



成果と課題

＜成果＞「運動やスポーツをすることが好き」では、「好き」「やや好き」の合計が9割を超える回答となった。また、「嫌い」と回答したのがわずか1.9%であった。また、「運動が得意」では、「得意」「やや得意」の合計が全国平均を超えた。

＜課題＞「中学校卒業後、自主的に運動したいですか」では、「思う」と回答した割合が、全国平均、大阪市平均ともに大きく下回った。このことから、運動が苦手な生徒に対しての授業の展開も考える。

今後の取組

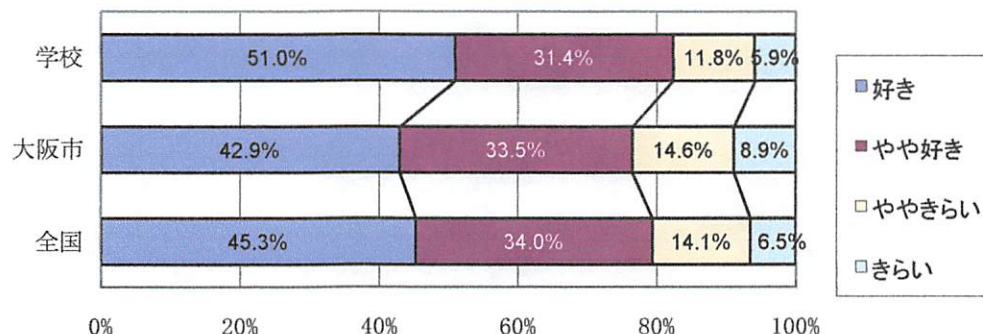
- ・チームティーチングによる授業等を全学年で実施することで、生徒の体力及び運動に対する意欲向上を図る。特に運動が苦手な生徒に対する指導方法の工夫、改善を実施する。
- ・運動やスポーツをすることが得意・好きな生徒を一層増加させ、生涯にわたって運動やスポーツに親しむことができる生徒を増加させる。

運動やスポーツについて（女子）

質問 番号	質問事項
----------	------

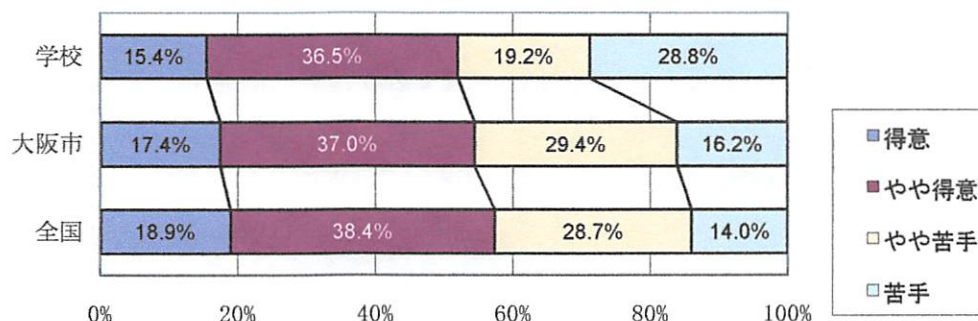
1

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか



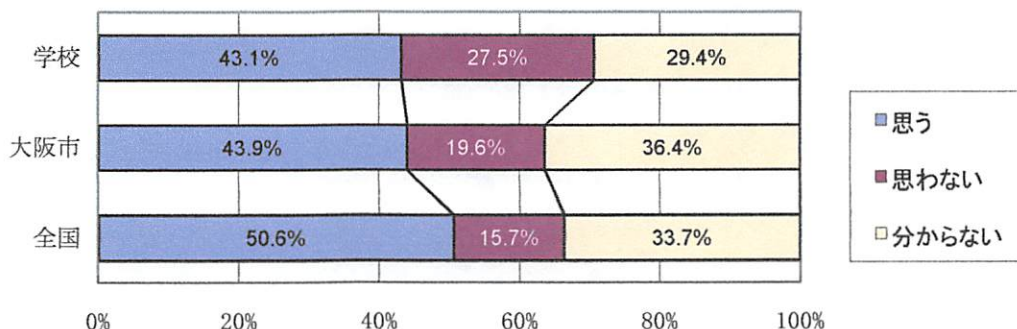
2

運動やスポーツをすることが得意ですか



3

中学校卒業後、自主的に運動したいですか



成果と課題

＜成果＞ 「運動やスポーツをすることが好き」では、「好き」の回答が51%と全国平均を上回った。また、「嫌い」の回答が5.9%と低い割合となった。「運動やスポーツをすることが得意」では、「得意」「やや得意」の合計が全国平均、大阪市平均より低い割合となった。また「卒業後、自主的に運動したい」では、運動したいと思わない回答が多かった。

＜課題＞ 「運動やスポーツが好き」ではあるが「得意」とは思っていない回答の割合が多かった。また、卒業後にの運動についても消極的な回答であったことから、運動に対する自尊感情を高め、生涯にわたり運動に親しむ生徒を増やすことが課題。

今後の取組

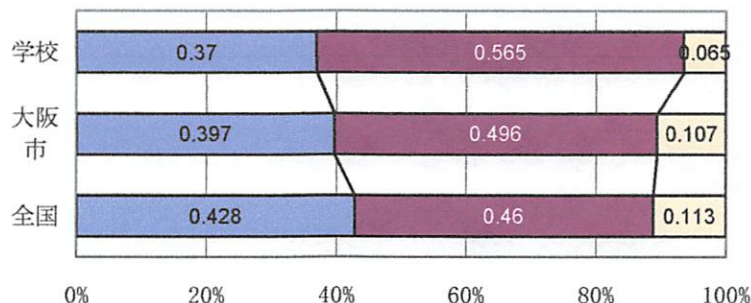
- ・チームティーチングによる授業等を全学年で実施することで、生徒の体力及び運動に対する意欲向上を図る。特に運動が苦手な生徒に対する指導方法の工夫、改善を実施する。
- ・運動やスポーツをすることが得意・好きな生徒を一層増加させ、生涯にわたって運動やスポーツに親しむことができる生徒を増加させる。

学校の保健体育の授業以外での運動やスポーツについて（男子）

質問
番号 質問事項

7

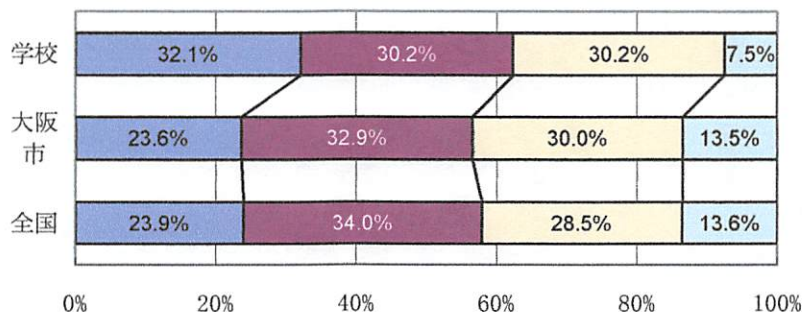
中学校1・2年生の長期休暇での運動時間はどれくらいですか



■ ふだんと同じくらい
■ ふだんより長い
□ ふだんより短い

8

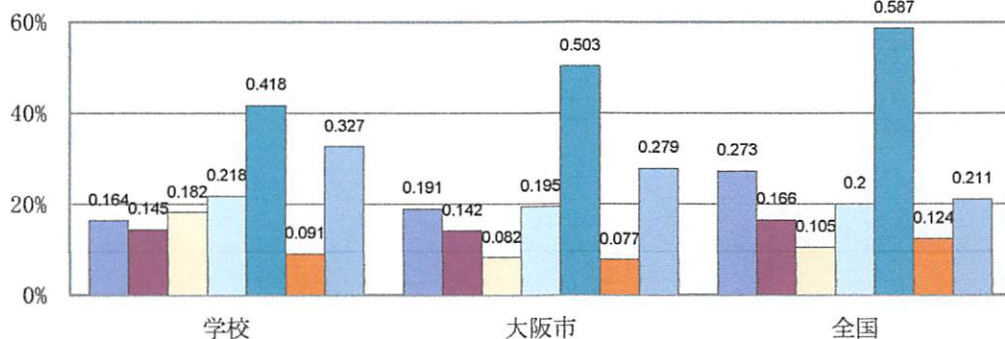
家の人からの積極的な運動のすすめ



■ よくある
■ ときどきある
□ あまりない
□ まったくない

10

オリンピック・パラリンピックを日本で行うことになりましたが、あなたの今の気持ちにあてはまるものをすべて選んでください。



■ 運動やスポーツに関心が高まってきた
■ オリンピック・パラリンピックの種目を自分も行ってみたい
□ オリンピック・パラリンピックの内容・歴史を知りたい
□ 自分も選手として出場してみたい
■ 試合を見に行きたい
■ 大会開催の手伝いやボランティアをしてみたい
□ 分からない

成果と課題

<成果>

長期休暇中、運動時間は「ふだんより長い」と回答した割合が56.5%と高い割合となった。このことは、運動部に所属している生徒の割合が高く、長期休業中に長い時間活動している結果である。

また、「家の人からの積極的な運動のすすめ」では「よくある」が32.1%、「ときどきある」が30.2%と、合計で62.3%になることから全国的に高い割合となった。このことが、運動部に所属し、運動を積極的に行う習慣の一つの要因となっていると思われる。

また、「オリンピック・パラリンピック」について、「試合を見に行きたい」の回答が41.8%とオリンピックに対して、興味関心をもっていることがわかる。また、「分からない」という回答も多かったことからオリンピックに対する意識の差もあることがわかる。

今後の取組

長期休暇中に運動やスポーツに参加している生徒が多かったことから、引き続き運動部での活動を活性化させていく必要がある。

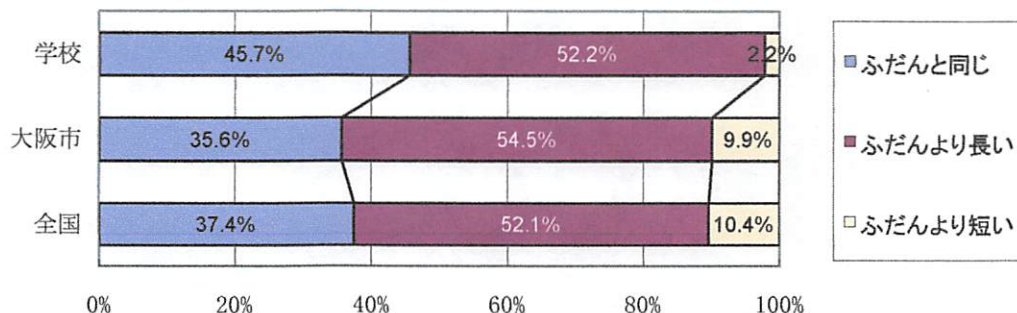
また、今後オリンピック世代といわれる現在の中学生在が、オリンピックに興味をもち、自国で開催されるオリンピックについて関心を持って取り組むことができるような体育授業を展開し、学校全体としての取り組みを行う必要がある。

学校の保健体育の授業以外での運動やスポーツについて（女子）

質問 番号 質問事項

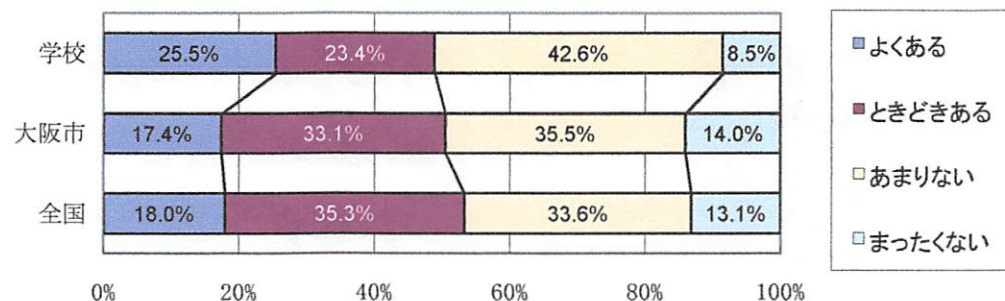
7

中学校1・2年生の長期休暇での運動時間はどれくらいですか



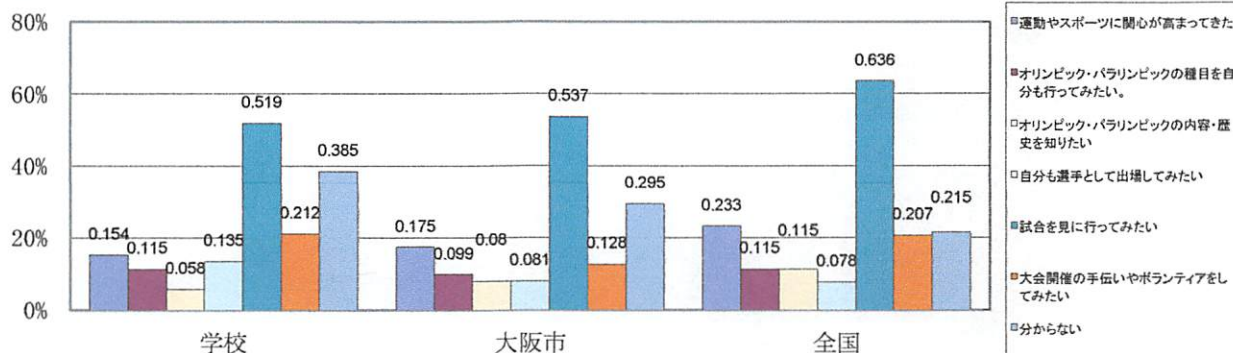
8

家の人からの積極的な運動のすすめ



10

オリンピック・パラリンピックを日本で行うことになりましたが、あなたの今の気持ちにあってはまるものをすべて選んでください。



成果と課題

<成果>

長期休暇中、運動時間は「ふだんより長い」と回答した割合が45.7%と高い割合となった。このことは、運動部に所属している生徒の割合が高く、長期休業中に長い時間活動している結果である。また、「家の人からの積極的な運動のすすめ」では「よくある」が25.5%、「ときどきある」が23.4%であった。一方、「あまりない」の回答が42.6%と高かった。

要因となっていると思われる。

また、「オリンピック・パラリンピック」について、「試合を見に行きたい」の回答が41.8%とオリンピックに対して、興味関心をもっていることがわかる。また、「分からない」という回答が多かったことからオリンピックに対する意識の差もあることがわかる。

今後の取組

長期休暇中に運動やスポーツに参加している生徒が多かったことから、引き続き運動部での活動を活性化させていく必要がある。

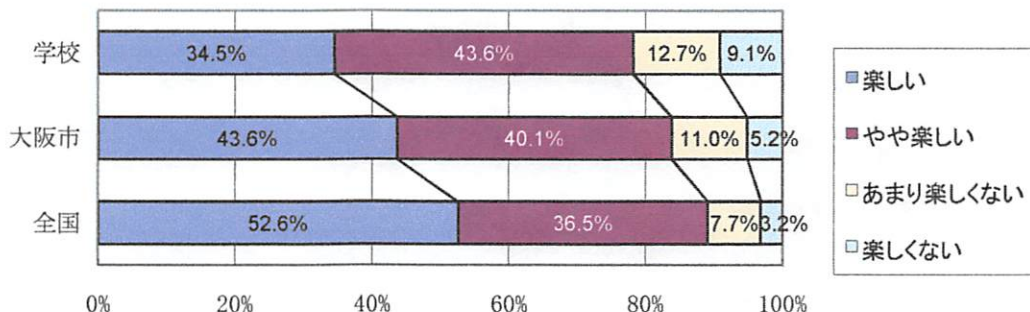
今後、オリンピック世代といわれる現在の中学生在が、オリンピックに興味をもち、自国で開催されるオリンピックについて関心を持って取り組むことができるような体育授業を展開し、学校全体としての取り組みを行う必要がある。

保健体育の授業について（男子）

質問 番号	質問事項
----------	------

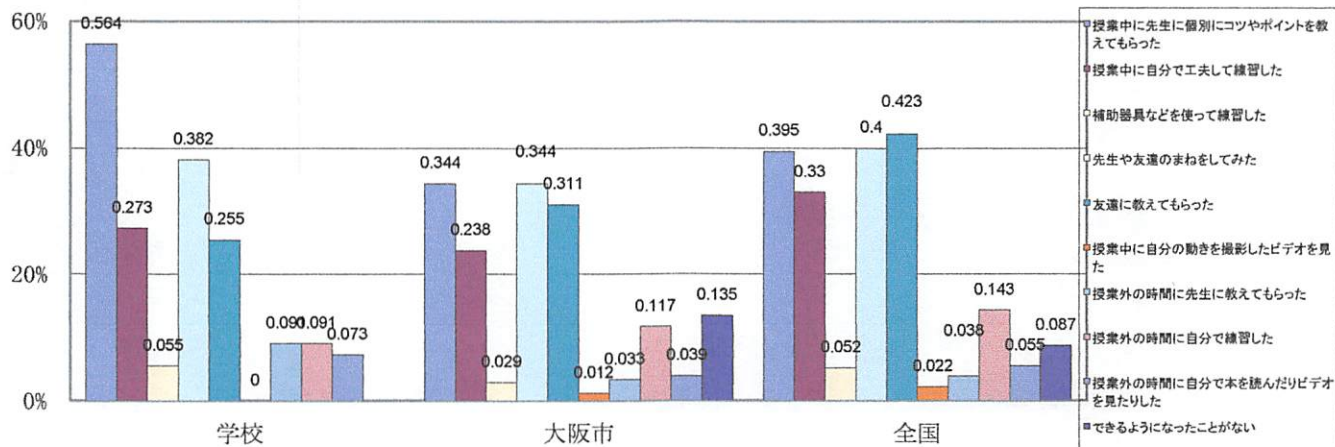
11

保健体育の授業は楽しい
ですか。



20

保健体育の授業で、できな
いことができるようになった
きっかけ



成果と課題

<成果>

「体育授業は楽しい」では、「楽しい」の回答が34.5%と低い割合であったが、「やや楽しい」では43.6%と高い割合であった。しかし、この2つを合計すると大阪市、全国平均ともに下回る結果となった。

また、「体育授業においてできないことができるようになったきっかけ」で、「授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」の回答が56.4%と最も多く、次に「先生や友達のまねをした」の38.2%であった。

この結果は、全学年においてチームティーチングを実施し、つまづいた生徒に対する個別の指導や、少人数による指導の成果であると思われる。

<課題>

保健体育の授業において、「体育授業は楽しい」と思える授業で、なおかつ規律のある授業を展開することが課題。また、「友だちに教えてもらった」の回答が、全国、大阪市よりも低い値となっている。このことから、集団として活動し、互いに教え合いや、チームで考えるなど、集団として活動する時間を確保していくことが必要である。

今後の取組

今回の結果より、「体育授業は楽しい」と回答した割合が低く、「やや楽しい」と回答した割合が少し高いものの、「楽しくない」と回答した割合9.1%は大阪市平均よりも高い値となった。このことから、体育授業において、規律ある授業を展開しながら、生徒個人が「体育授業が楽しい」と思える授業を展開する。

一方で、「できるようになったきっかけ」として、「授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」の回答が最も多いことから、全学年においてチームティーチングを実施することで、個別の指導ができた成果であると考えられる。よって、来年度以降も引き続きチームティーチングを実施し、個別の指導や少人数による指導を図る。また、集団育成の観点から、体育授業においても、グループ学習や班活動など、集団としての取り組みを今まで以上に取り入れ、課題解決に向けて生徒同士で考え、教え合える場がある授業を展開していく。

保健体育の授業について（女子）

質問
番号

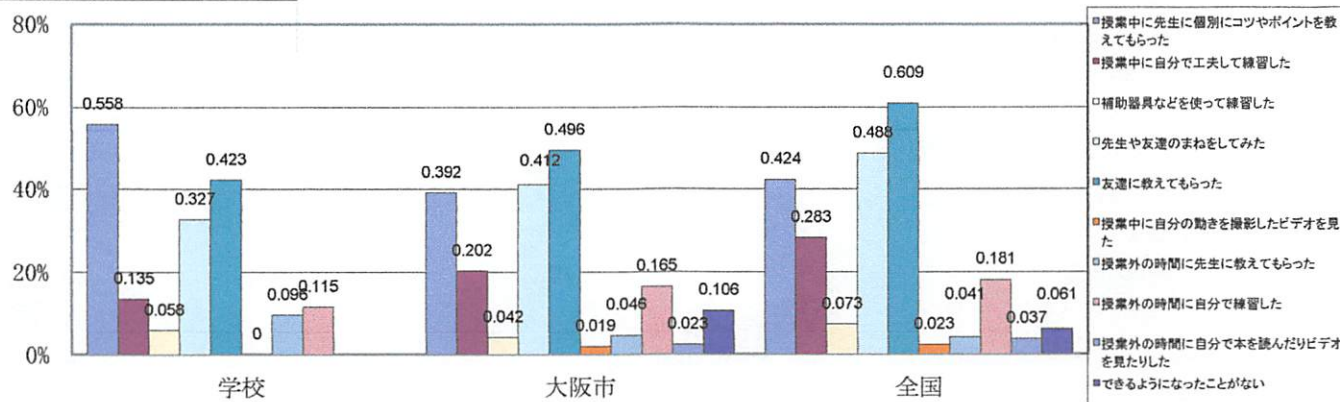
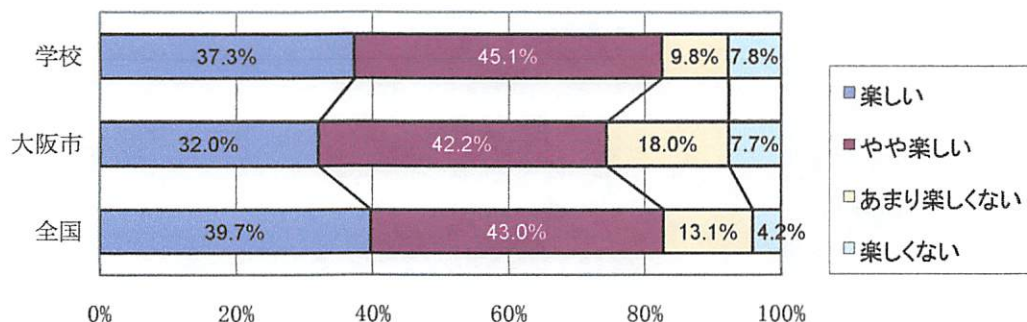
質問事項

11

保健体育の授業は楽しい
ですか。

20

保健体育の授業で、できな
いことができるようになった
きっかけ



成果と課題 ＜成果＞

「体育授業は楽しい」では、「楽しい」の回答が37.3%と全国より低い割合であったが大阪市より高い割合であった。また、「やや楽しい」では45.1%と高い割合であり、「楽しい」「やや楽しい」の値の合計では82.4%と高い値であった。

また、「体育授業においてできないことができるようになったきっかけ」で、「授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」の回答が55.8%と最も多く、次に「友だちに教えてもらった」が42.3%となった。この結果は、全学年においてチームティーチングを実施し、つまづいた生徒に対する個別の指導や、少人数による指導の成果であると思われる。また、女子では友だち同士の関わりが大きなウエイトを占めることから、集団で活動する時間を増やしたことが割合が高まる要因になったと思われる。

＜課題＞ 保健体育の授業において、「体育授業は楽しい」と思える授業で、なおかつ規律のある授業を展開することが課題。

また、「授業中自分で工夫した」の回答が、全国、大阪市よりも低い値となっている。このことから、課題解決に向けて自分で解決に向けて考え、取り組む授業の展開を行う必要がある。

今後の取組

今回の結果より、「体育授業は楽しい」「やや楽しい」の2項目を合計すると、高い割合であった。一方で、「楽しくない」と回答した割合13.5%は大阪市平均よりも高い値となった。このことから、体育授業において、規律ある授業を展開しながら、生徒個人が「体育授業が楽しい」と思える授業を行う。一方で、男子同様「できるようになったきっかけ」として、「授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」の回答が最も多いことから、全学年においてチームティーチングを実施することで、個別の指導ができた成果であると考え。よって、来年度以降も引き続きチームティーチングを実施し、個別の指導や少人数による指導を図る。

また、体育授業の中で、課題解決に向けて、自分で考えたり、工夫したりするといった取り組みが必要であることがわかる。授業担当者がすべての答えを与えるのではなく、生徒個人に考えさせ、課題解決するための取り組みが必要である。

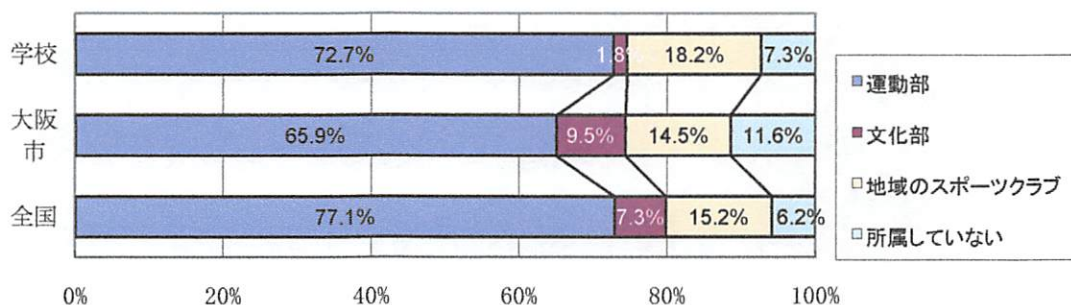
部活動等のことについて（男子）

質問
番号

質問事項

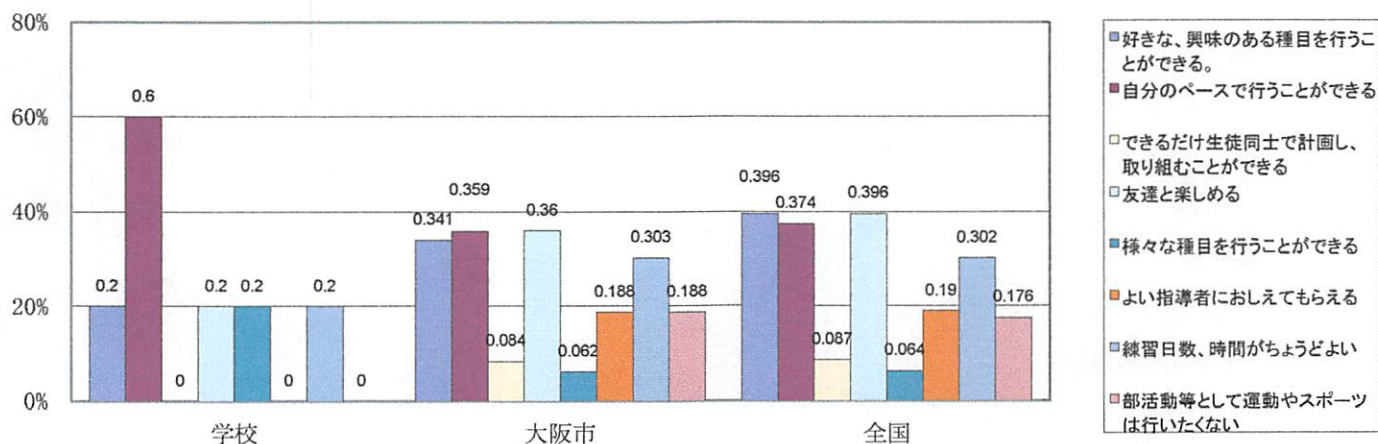
24

学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。あてはまるものすべて選んでください。



27

運動部に参加してもよいと思える条件は何か。



成果と課題 <成果>

部活動では、学校として運動部が多く、文化部が少ないことから、運動部所属部員が72.7%と高く、文化部所属が1.8%と低い値となったと考えられる。また、所属していない回答が7.3%と、大阪市平均に比べ、低い値であった。「運動部に参加してもよいと思える条件」として、「自分のペースで運動できる」が60.0%と最も高く、次に「友達と楽しめる」が39.6%と高く、複数回答ではあるがこの2つの項目で99.6%を占めている。

また、「好きな興味のある種目ができる」が20.0%と低い値であり、「部活動で運動は行いたくない」という回答が0%であったことは、部活動に所属し、運動は行いたいと思っていることがわかる。

<課題>

部活動に所属し、運動を行いたいという回答結果からも、運動部活動をより活性化させることが必要である。そこで、「運動部に参加してもよいと思える条件」として、「好きな興味のある種目ができる」の回答が大阪市と比べ低いことから、現在男子の運動部（野球、サッカー、バスケ、卓球）の他に可能であれば増やすことも検討する必要がある。しかし、学級数減少に伴う教員数の減少も考慮していかなければならない課題である。

今後の取組

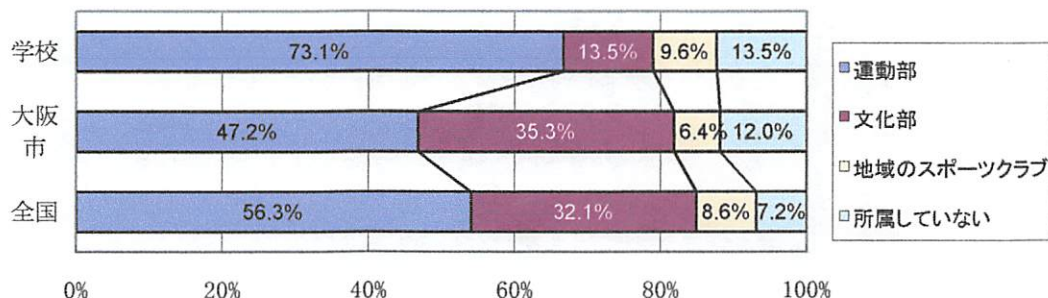
学校全体として、運動部に所属している生徒の割合が高く、部活動で運動は行いたいと思っていることがわかる。このことから、部活動をより活性化させるためにも、男子部活動では、可能な限りより多様な種目を検討していくことが必要である。

部活動等のことについて（女子）

質問 番号	質問事項
----------	------

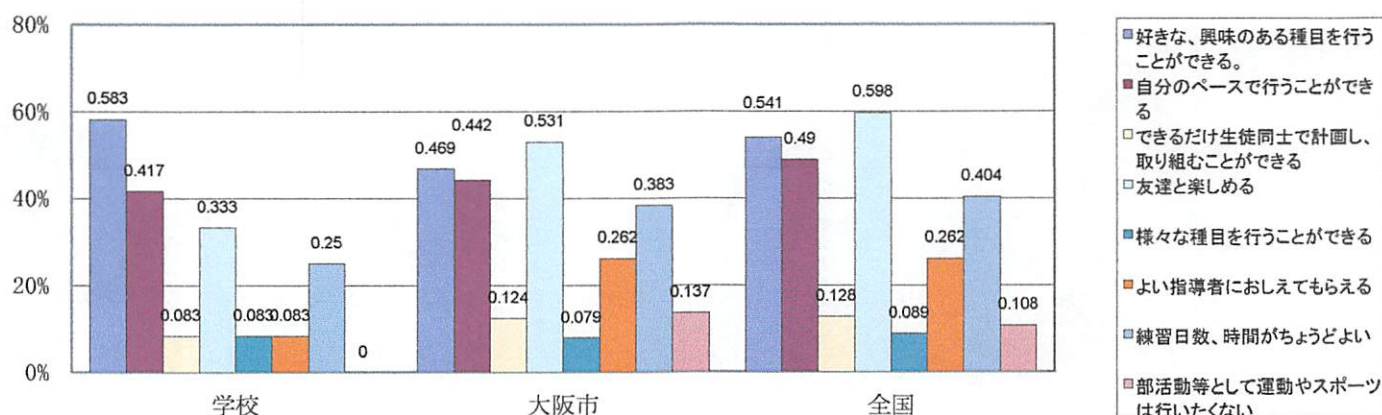
24

学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。あてはまるものすべて選んでください。



27

運動部に参加してもよいと思える条件は何か。



成果と課題

運動部所属部員が73.1%と高く、文化部が13.5%と低かった。これは学校の部活動の現状として、女子の運動部活動数が多く、多くの生徒が運動部に所属していることがわかる。また、運動部に所属していない回答が13.5%と、大阪市平均に比べても高い値であった。

また、「運動部に参加してもよいと思える条件」として、「好きな興味のある種目ができる」が58.3%と最も高く、次に「自分のペースで運動できる」が41.7%と続く。また、部活動で運動は行いたくないという回答が0%であったことは、男子同様、部活動に所属し、運動は行いたいと思っていることがわかる。

<課題>

部活動に所属し、運動を行いたいという回答結果からも、運動部活動をより活性化させることが必要である。女子では「好きな興味のある種目ができる」の回答が最も多く、現在女子の運動部（サッカー、ソフト、バスケ、バドミントン、バレー、卓球）の数が多いことから好きな種目に所属できていることがわかる。一方で、女子の運動部数が多いことで、部員の偏りや部員不足もみられるため、検討していくことが必要となる。

今後の取組

学校全体として、運動部に所属している生徒の割合が高く、部活動で運動は行いたいと思っていることがわかる。このことから、部活動をより活性化させるための検討が必要となる。